新

を対象に、流域調査、線形・SPR工法で再構築する幹線

Sの開発技術である自由断面

下水道幹線調査では、TG

**盒業務を受託している。** 

で多岐にわたる。その一つと

下水道幹線や水再生セ ポンプ所に関する調

> えらせるものである。 することで強固な管として蘇 モルタルにより両者を一体化

下水道サービス

**施設の運転管理や保全管理、 所施設の保全管理、汚泥処理** 

(更生管)を製管し、特殊な

務と言います」と語る坂本さ

塩ビ樹脂製の新しい管 ト管(既設管)の内

水道の調査研究等に至るま

果京都下水道局の工事発注に

**博造調査、構造解析等を行い、** 

入社、研修を経て7

を担当している。昨年4月に

注するに当たっての調査業務がSPR工法による工事を発

坂本和輝さんは、下水道局

■調査業務の重要性

GS)は、東京都の下水道事

熟知している。

■自由断面SPR

に関わる調査業務

から下水道管の構造や特徴をのノウハウを有するととも

3

ツ

技術を

磨

者として構造解析や施工方法

#### 若手社員の B

社である。業務は下水道管の維持向上に努めている株式会

を、道路を掘らずにリニューたもので、劣化した下水道管

他の民間企業と共同で開発

SPR工法とは、TGSが

アルする更生工法だ。古いコ

維持管理や設計・施工管理か

水再生センター・ポンプ

ンクリー

団体として下水道サー



性を秘めている。官民の壁がこそ、その提案は無限の可能

業を広く展開する企業だから いきたい」と意欲を語る。事設・管路一体で技術提案して

「とにかくキャラクターが豊く に部としても、全社的にもく てくれる頼れる存在だ。さら

2年半は、

学系の学部に入学。 ホがくっつくメカニズム」と 性に惹かれ、大学は農学・理環境分野や生物利用の将来 いう風変わりな研究に打ち込

本

0

いたことがきっかけ。そこか用いられる除貝装置を扱って つながり得るのだという。じめ付着を防ぐ素材の開発に ら「身近に水環境を研究して いる先生もいて、人々の生活 に大きく関わり、ますます重 **帰理を解明できれば、あらか** んだ。船や取水口に付着する フソウに興味を持ったの 港湾施設や発電所などで ザイン事業部には、水の未来 所属するソリューションデ

資機材の製造・販売、施設の フラを支えたい」と考えた。 **著視されていくだろう水イン** フソウは上下水道における イン構築のために、事業体のとする。持続可能なライフラ う。目指すところは「地域そを創造する役割があるとい などにも取り組んでいる。 ニーズを一つひとつ丁寧に拾 が抱える課題の解決方法を提 ョンをとり、それぞれの地域国の事業体とコミュニケーシ 籍する官民連携推進課は、 に解決していくこと」だ。 れぞれの課題に向き合い、 い上げ新たな提案材料の拡充

齋藤

■海洋生物の研究から 水インフラへ

「フジツ と紹介する。

欠かせない縁の下の力持ち」の会社をあらためて「生活にの会社をあらためて「生活に貢献を目指している企業だ。

■官と民が手を取り合って

課題に取り組む

真太朗さん

## 経過した。「SPR工法は既調査担当に配属され、1年が -月に土木

### 坂本 和輝さん 技術部 技術開発課 土木調査担当主事

工事発注に必要な図書を完成

**既設管の調査を協力会社のコ** させた。最初の1~2週間は、

す」。モデルに基づき、コン

ンサルタントに委託して行っ

路線の再構築調査で、昨年秋

に着手し今年5月に全区間の

局が発注した下水道管のあるた調査業務の案件は、下水道

初めて責任者として担当し

の業務の核となる仕事であ



地下の下水道管内に入り状況を確認 計図について、チ内の全スパンの設

に必要な図書が求められた条 設計図を作成する。工事発注サルタントが構造計算を行い を共有する。 区間い、 修正すべき点 か、発注者である 局の担当者を交え

局から派遣された社員のみで 長らく下水道局のOB社員や 土木調査担当のメンバーは

です。局が長い歴史の中で培

技術を磨き成長した

- ト体制が整って

人によるベストミッ

現況を把握

で、管の土被りや周囲地盤の えることが、最適な設計につる。「現場の状況を正確に捉 状況もモデルに反映させま 耐震性能も求められますの ながります。SPRの施工は に入社。一足先に高専の同級 を専攻したが、土木に軸足を を専攻したが、土木に軸足を を専攻したが、土木に軸足を ■一を聞けば百が 返ってくる

設会社などと協力しながら仕ものの「コンサルタントや建ちのの「コンサルタントや建ちが入社していたため、業務

担っていることを入社して実 なるマネジメントをTGSが

えていただけま

事を進めるに当たって、核と

属された。「周りはベテラン社員第1号となり、さらに今めったので、坂本さんが新入 の方ばかりなの

困った時の解決策を詳細に教ではわからない現場の状況や を語る。 や局派遣社員など、

いきたいと思います」と抱負の方々から吸収し受け継いで ってきた技術力を、 「TGSはOB社員 ちまぢま ベテラン

管自体がどこまで劣化して るかを調べる構造調査では して、強度試験を行います」 「自らも管路内に立会いコン トや鉄筋の一部を採取 終えるまで約半年間となっ

ックが変わってきます。そのなどれだけの強度を有してい

ため既設管の劣化等の現況を

づき構造解析を行って設計図 しっかり把握して、それに基

という。

するのだが、これは坂本さん位で構造解析のモデルを作成調査データを基に、スパン単 コンサルタントが作成した に達成感を感じます」とやりいう形で街の一部になること品に反映され、さらに施工と がいを語った。 分の努力が設計図という成果

当している坂本さんだが「自引き続き、新たな案件を担

1日のス 始業 メールチェックと返信 月1~2回は進捗報告のミーティングも 打ち合わせに向け作成した資料のチェック 10:00 打ち合わせ 作成した設計図について、下水道局とコンサルタント の担当者と打ち合わせ 12:00 昼休み 13:00 午後の業務開始 調査データの確認と構造解析モデルの諸元確認 設計図のチェックとコンサルタントへの訂正指示

時には担当区域の地上部確認で現場に足を運ぶことも

# 性が良い化学反応を起こして富」とのことで、「その多様 月 性

### 調査研究を行う公益財団法人 に従事した。昨年度末までの1年間、監督業務や書類作成 工事現場の施工管理を担当 恵まれた。新人研修後はまず 目線で水道に向き合う機会に で、受注者と発注者、両方の ■広がった視野を生かし 4年と少しのキャ 受注企業の立場でおよそ 水道技術に関する リアの中 8:30 予定確認、朝礼 8:50 情報収集·精査、資料作成 12:00 昼休み 13:00 資料の内容確認、打ち合わせ 17:25 終礼 18:00 帰宅

ソリューションデザイン事業部 事業企画部 官民連携推進課

転や維持管理、ゆくゆくは施 とした上で、まずは施設の運

経験が長く、人と話すスキル る。コンビを組む課長は営業 して「上下水道の担い手が減とみている。現在の仕事に対

よそ半々の割合で、

してもメールや電話、オンラよそ半々の割合で、いずれに

人化・省力化を一つのテーマ少していくことも踏まえ、省

合わせが多くの時間を占めイン会議システムによる打ち

く、アセットマネジメント。的な視点で管理・更新してい

て取り組んでいく。

業務は出社と在宅勤務がお

を解決する」ことを理想とし

良い社風を窺わせた。

がますます重要になっていく

## をしっかりと把握し、中長期 民がより手を取り合って課題 多くの会議はオンライン いる気がします」と風通しの ドライブ先で撮影した1枚

まうに思います」という貴重 な経験は、相手の立場に寄り な経験は、相手の立場に寄り さるはずだ。 注者側の考え方の一端に触れの共同研究などを通じて、発センターの特徴である産官学センターの特徴である産官学 支える」という入社時の志は、「水インフラで人々の生活を環境・生物分野への貢献や 支える」という た。「視野が大 

これまでの仕事 いるとは言い難

で温泉や食べ歩き、 コロナ禍が収まったら、

の具現 その先に見据えるのは、 ってくるはず」と笑顔で話す。

QW-6PHTシリーズ

な理念なのかもしれない Gsにもつながるような大き 趣味はドライブ。 。平日の夜は近くの食べ歩き、写真撮影 訪れた先



最大6項目の屋外自立盤タイプ(QW-6PHTシリーズ)と最大4項目の





### JFE アドバンテック 株式会社

URL: http://www.jfe-advantech.co.jp/

本社水環境事業部 TEL.0798-66-1502 FAX.0798-65-7025 名 古 屋 支 店 TEL.052-565-0070 FAX.052-565-0072 東 京 支 社 TEL.03-5825-7360 FAX.03-5825-5591 中国·四国支店 TEL.086-440-1580 FAX.086-447-3309 支支 京北 店 TEL.022-711-7535 FAX.022-711-7534 九 州 支 店 TEL.092-263-1671 FAX.092-263-1675



16:45 終業

株式会社 栗本鐵工所 パイプシステム事業部

社/〒550-8580 大阪市西区北堀江1丁目12番19号 TEL(06)6538-7641 ■東京支社/〒108-0075 東京都港区港南2丁目16番2号 TEL(03)3450-8510 店/●北海道支店 TEL(011)281-3302 ●中国支店 TEL(082)247-4133

●東 北 支 店 TEL(022)227-1873 ●九州支店 TEL(092)451-6623 ●名古屋支店 TEL(052)551-6932

